

提出された意見（14名・20件）	意見に対する市の考え方（案）
①市民憲章の改定に反対する。（同様の意見が他6件） 【以下その理由】 現行の市民憲章は木更津市がめざす目標を市民に示すものになっているが、改定素案はどのような木更津市にするのか、市の姿が全く見えない。行政がまちづくりを進めるための具体的な指針となるものが希薄である。現行の市民憲章の5項目は現在でも立派な目標となっており、決して古くなっていない。 市が市民に対してあるべき人間像を押し付けるものになっている。上から目線の人づくり憲章で、市民憲章にそぐわない。市民の行動規範は市が定めるべきでない。 木更津市でなくても、どこの市でも使えそうで特徴がない。戦前の教育勅語や修身の教科書のような。文章が短くなったのは良いが、理解しにくい。暖かみがない。	現行の木更津市民憲章の制定から約30年が経過しようとする中、わが国の社会潮流は大きく変化しています。急激な少子高齢化の進行や地域のつながりの希薄化、様々な分野において担い手の不足等の課題が顕在化しており、これまでのまちづくりの仕組みでは、対応することが難しい時代を迎えています。本市においても、近い将来には、人口減少社会が到来し、財政的にも体制的にも、行政が対応できる範囲が限られてくることが見込まれています。このような中、将来にわたって持続可能な地域社会を構築していくためには、これまで以上に市民主体のまちづくりが求められています。このため、改めて市民として、どのようにまちづくりに関わり、どのように行動するのかについて考えていただき、できることから行動していただきたいことから、今回、市民憲章を改定しようとするものです。 全国の市民憲章は、まちづくりの目標を示すものと市民の行動規範を示すものに大別されます。現行の市民憲章は、制定当時の社会潮流であった行政主体のまちづくりを反映し、「心のこもる教育をすすめ」や「産業をさかんにし」など、行政のまちづくり目標とも取れる表現が混在しています。このため、市の最上位の計画である木更津市基本構想と市民憲章の役割を整理し、まちづくりの目標は基本構想に規定し、市民憲章は市民の行動規範としようとするものです。改定素案では、普遍的なまちの理想像として、「世界に開かれ、夢と希望に満ちた住みよいまち」を掲げ、その実現に向け、どのように行動するのかといった観点から構成しているものです。

	改定素案については、日頃より地域活動等を実践している方々で構成される市民憲章改定案検討会議において意見を伺い、取りまとめを行ったものです。その中では、本市をより良いまちにしていくためには、より積極的に、また前向きに行動していくべき、またそのように行動したいというご意見や市が進めている「オーガニックなまちづくり」の理念に共感するといったご意見、またそのためには当事者意識の醸成が重要であるといったご意見等を踏まえたものです。 市民としてどのように行動すべきかということは、普遍的なテーマでもあり、市によって大きく変わるものではないと考えており、道徳的な考え方も含まれてくるものと考えます。 より分かりやすくするため、各項目について簡潔な表現に努めていますが、各々の具体的な行動につなげていただきたいことから、抽象的な表現としています。
②現行の市民憲章にある「平和」という文言が、改定素案には抜けている。(同様の意見が他5件)	まちの理想像として、「世界にひらかれ、夢と希望に満ちた住みよいまち」を掲げており、平和なまちについては、その中に包含しているものと考えます。
③「歴史に学び、伝統と文化をつなぎます」とされているが、市は施設の有料化を進めており、矛盾していないか。	公民館の有料化については、受益者負担の公平性の観点から進めているもので、市民憲章の理念に矛盾していないものと考えます。
④改定素案は心の持ち方が中心となっていて、具体性に欠けている気がする。	素案の1項目目「命を尊重し 思いやりの心を持ちます」と7項目目「感謝と奉仕の気持ちを大切にします」については、より具体的な行動規範となるよう修正しました。
⑤現行の市民憲章にある「産業をさかんに」という文言が、改定素案には抜けている。(同様の意見が1件)	木更津市基本構想と市民憲章の役割を整理し、産業振興などのまちづくりの目標は基本構想に規定し、市民憲章はまちの理想像の実現に向けた市民の行動規範としようとするものです。

⑥若い人でもわかる様な表現の方がよい。	より分かりやすくするため、各項目について簡潔な表現に努めていますが、周知していく中で、具体的な行動例を示すなど、工夫してまいります。
⑦ボランティア精神を高めることは良いと思うが、戦前のように戦争に関係するような奉仕や天皇に感謝などは拒否する。	奉仕はボランティアを意図しており、より分かりやすくするため、「社会に貢献」という表現に改めることとしました。また、感謝については、特定の対象を想定しているものではありません。
⑧7項目の指針は抽象的な表現なので、オーガニックなまちづくり活動など、具体的な活動につながることを期待する。	各項目に関し、子供から大人まで、ライフステージに応じ、具体的な行動につなげていただきたいと考えています。